

## 【第5回】石巻市震災伝承検討委員会議事要旨

- 開催日時 平成26年10月16日(木) 午後1時30分～午後3時30分
- 開催場所 石巻市役所4階 庁議室
- 議事次第
  - 1 開会
  - 2 あいさつ
  - 3 議事
    - (1) 震災遺構3候補についての保存の意義・必要性の整理結果
    - (2) 旧門脇小学校の保存の在り方と伝承方法の検討
  - 4 その他
    - (1) 今後のスケジュールについて
  - 5 閉会

### ◆ 議事要旨

#### (1) 震災遺構3候補についての保存の意義・必要性の整理結果

資料1に基づき事務局から説明し、前回までの整理結果を確認。

#### (2) 旧門脇小学校の保存の在り方と伝承方法の検討

資料2～6に基づき事務局から説明、旧門脇小学校の保存・活用方法等について議論。

(主な意見)

- ・旧門脇小学校周辺に戻ってくる世帯数はどれくらいあるか。地域への影響力はその世帯数にもよるのではないか。  
⇒土地区画整理事業の資料を配付し計画人口等を確認
- ・概算事業費で、長期修繕費に記載されている金額は毎年かかるのか。  
⇒毎年ではなく10～12年毎に実施する修繕費である。
- ・校舎内や体育館にある個人的な所有物や卒業生の共同制作等については、今のまま保存するのか。  
⇒現在はそのままにしてある。今後教育委員会と検討していく必要がある。

<保護屋根(ドーム)などの校舎の目隠しについて>

- ・地域住民への配慮としてドームを設置したイメージ図を用意してあるが、旧門脇小学校周辺にある墓地に重ならないように配慮されているか。  
⇒重ならないように配慮した構造となっている。
- ・夜間にはドーム内に人が入れないようにするのか。  
⇒入れないようにする。ドームではなくコの字に目隠しを設置した場合も同様。

- ・校舎から日和山公園へ避難したことも重要だと思う。今後、修学旅行などで避難訓練の体験ができるよう、ドームの出入口も検討してほしい。
- ・建物高さのイメージをつかむため、背景を写真とあわせたドームのイメージ資料を次回見せてほしい。ドームで覆った際も高さに配慮したプランなども今後検討していく必要がある。  
⇒次回の委員会にて資料を提示する。
- ・盛土で地盤が高くなるのであれば、周辺に公園もできるので、それらとあわせて高木など緑で目隠しすることはできないか。  
⇒区画整理の嵩上げについては、西側から高さを落とし門脇小学校で嵩上げが終了するイメージなので、地盤の嵩上げの影響は受けない状況になっている。
- ・ドームは初期費用がかさむが建物を保護することができるため、その後の維持管理費等は安くなる。樹木だけだと校舎の保存が難しい。緑で目隠しするのであれば、ある程度の劣化は仕方がないとわりきるしかないと思う。
- ・こういった手法で目隠しをするかをこの委員会で判断するのは難しい。見えなくするということは前提だが、方法については地域住民の意見も取り入れたほうが良いと思う。

<校舎の活用方法等について>

- ・校舎の中に見学者を入れようとすると消防等の確認がいるか。  
⇒消防の確認や耐震性の確保が必要になってくると考えられる。
- ・外から見学させる方法が良いと思う。また、目隠しも校舎の劣化も防ぐことができるのでドームにした方が良いと思う。校舎と海との距離感も重要なポイントであると考えるので、窓を設置して、外部通路から海が見えるよう工夫した方が良い。  
⇒窓を設置するのは可能と思われる。旧門脇小学校からの視界については、復興祈念公園に「鎮魂の丘」の計画があるので、公園の計画次第で、旧門脇小学校から海が見えなくなる可能性もある。
- ・震災遺構を見学する際のガイダンス施設としての機能が必要であるかどうかも踏まえて検討することが必要。
- ・防災・避難訓練の必要性を伝えていく情報発信の場としても重要な事例であるため、ソフト面の情報も整理する必要がある。
- ・グラウンドの活用方法も今後検討していくべき。バスなども含めて見学の駐車場をどこに設けるかなど検討が必要なので、復興祈念公園との連携も踏まえて検討してほしい。
- ・住んでいる人に迷惑がかからないよう、駐車場はできれば復興祈念公園に設けてほしい。
- ・児童、生徒の修学旅行時を想定すると、歩く距離が長いと、周辺の方々に与える影響も大きく、天候によっては見学に支障がでることが予想されるため、駐車場は近くにあった方がよい。
- ・グラウンドに展示施設の建設はあるか。  
⇒スペースとしては建設が可能。

- ・遺構として残す明確な説明が必要。遺構として残すのであれば、長期にわたり見学者が訪れる工夫が必要。
- ・耐震補強については、外部から見せる場合でも、外側から耐震補強が必要か。  
⇒耐震補強については、耐震診断や構造計算等を行わなければならないので、現時点ではどのような方法で補強するかは判断できない。

<校舎の保存方法について>

【保存方法検討パターン】

- ※保存方法1・・・校舎全体を保存
- ※保存方法2・・・被災の特徴である火災部分（東側3スパン）を保存
- ※保存方法3・・・火災部分及び火災の燃え広がり方を保存するため、解体部分を最小限に抑えて保存（西側3スパンを解体）

- ・津波がこの学校まで押し寄せたことが校舎から分かることや被災時の避難経路など様々な視点を考慮して今後の設計に取り組んでいくべき。  
北側校舎や体育館については、解体することが前提なのか。  
⇒具体的な方向性はまだ決まっていない。地域住民との検討が必要。北側校舎についても今後保存か解体かの検討が必要となるが、保存するのであれば、耐震補強が必要。体育館の保存は難しい。
- ・校舎全体保存で、ドームを設置すると、圧迫感があり、地域住民への影響が大きいのではないかと考える。保存するのであれば、保存方法3が良いのではないかと考える。また、活用方法については、外部から見学させた方が校舎の保存にも適しているのではないかと考える。
- ・全体保存は費用面を考慮すると難しいのではないかと考える。保存方法3がよいと思う。
- ・圧迫感や費用を考慮すると保存方法2にして、駐車場スペースを確保した方がよいと考える。
- ・津波被害を伝えるため、津波被害の痕跡がある保存方法2が良いのではないかと考える。
- ・理想は保存方法1だが、費用面を考慮すると特に大きな被害を受けず、従来の教室の様子も残っている保存方法3が良いと思う。
- ・大きな影響がない普通教室を見て、解体されずに良かったなと卒業生などが思い出してもらえたらよいのではないかと考える。
- ・校舎の西側2階の窓から日和山公園へ避難したことを伝えていく必要性を考慮すると、保存方法3が良いと思う。
- ・火災場所を残すことも重要だが、避難した経路を残すことも重要。場合によっては、両脇を解体することも考えとしてはありえると思う。

<その他>

- ・他の委員会で検討している復興祈念公園と旧門脇小学校との連携について調整が必要。
- ・最終的に遺構とした際に、見学者に入館料などを頂いて料金収入で維持管理費を賄うの

か。

⇒公共公益施設は通常、一定の料金を頂いている。財源については復興庁と協議が必要。

- ・維持管理費の補助は難しいが初期費用の補助はある。
- ・校舎の管理手法などについては、構想の内容にもよると思う。今後の検討が必要。
- ・周辺住民への配慮としては、ドームだけでなく、見学者がたくさん訪れることによる配慮も必要。
- ・東日本大震災の遺構として情報の発信力をもたなければならないと思う。そのためどのような整備をする必要があるのか、地域住民に対してどのような配慮をする必要があるのかを考えていかなければならないと思う。

以上から、これまでの会議での検討内容を併せて意見をまとめ、次回の委員会において、市長提言を作成することとした。

#### ◆ その他（事務連絡）

##### (1) 今後のスケジュールについて

次回以降の委員会の開催スケジュールと検討内容について事務局から説明。

以上